

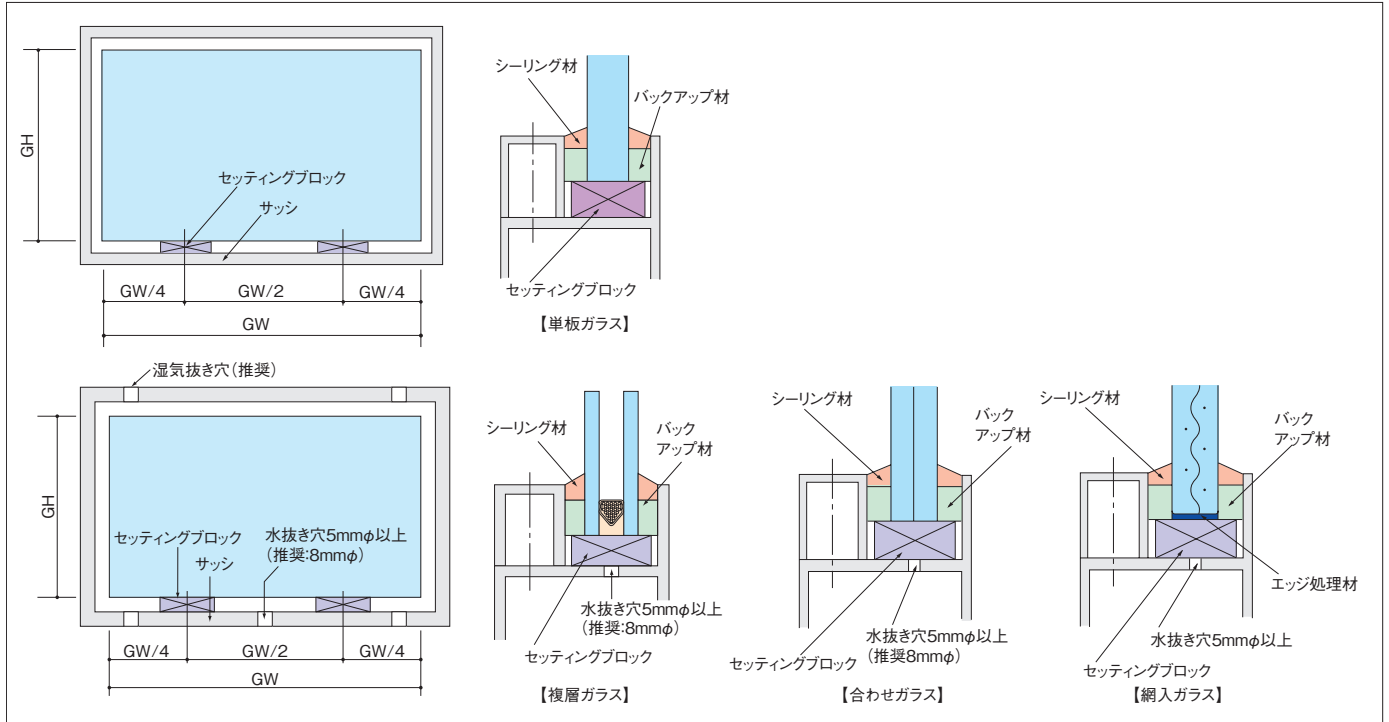
標準施工法

ガラスの構法(施工方法)には「不定形シーリング材構法」「グレイジングガasket構法」などがあります。それぞれの構法に応じてJASS-17 (日本建築学会・建築工事標準仕様書17・ガラス工事)に規定された方法で施工してください。

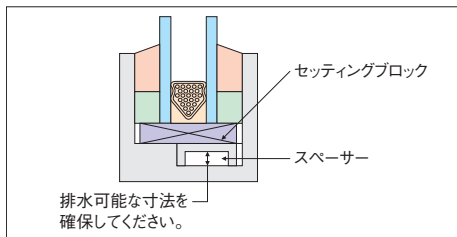
●不定形シーリング材構法

ガラスをサッシにはめ込み、ガラスとサッシの面クリアランス部分に弾性シーリング材を充填して固定する施工方法。

●施工図



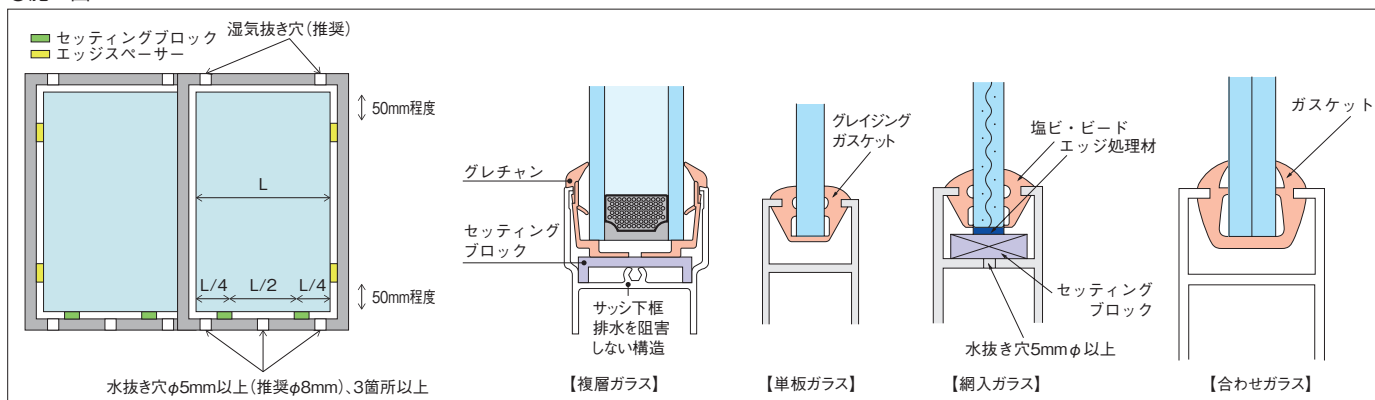
1. 網入ガラス、複層ガラス、合わせガラスなどのガラス小口は長期間、水に接していると劣化が早まりますので、サッシ溝内に入った水を速やかに排出するため、サッシ下枠に直径φ5mm以上(推奨直径φ8mm)の水抜き穴を3か所以上設けてください。
2. セッティングブロックは硬度80°～90°のEPDM-S(耐シリコンタイプ)を2個使用してください。ガラスの自重で変形しないように、次の寸法のものとしてください。
長さ: 25×Amm以上(ただし、最小寸法50mm以上)
A : ガラス面積(nf)
幅 : ガラス総厚+5mm以上
厚さ: 5～12mm程度
3. シーリング材はJIS A 5758 (建築用シーリング材)に適合するものをご使用ください。シリコン系の弾性シーリング材が一般的です。
ただし、合わせガラスの場合は、中間膜への影響が少ない脱アルコールタイプのシリコン系弾性シーリング材をご使用ください。
4. バックアップ材は発泡ポリエチレンなど、やわらかい材料をご使用ください。
5. 防火設備、特定防火設備には、シーリング材、バックアップ材ともに認定に適合した材料をご使用ください。
6. クリアランス、かかり代などの寸法はJASS-17 (日本建築学会・建築工事標準仕様書17・ガラス工事)に規定された寸法を最小値としてください。P.158参照
ただし、合わせ複層ガラスの場合は、合わせガラスを総厚と同じ厚さの単板ガラスとみなして判断してください。
また、複層ガラスのかかり代は、(室外側ガラスの総厚)+9mm以上としてください。
7. サッシ溝の底面がフラットでないサッシの場合、ガラスが不均等な支持にならないよう、形状に合わせたスペーサーなどを使用してセッティングブロックを設定してください。
また、その際に水抜き穴や排水経路を塞がないようご注意ください。



●グレイジングガスケット構法

グレイジングチャンネルまたはグレイジングビードといった定形シーリング材をガラスとサッシの空隙に挿入、装着させて固定する施工方法。

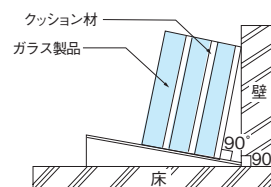
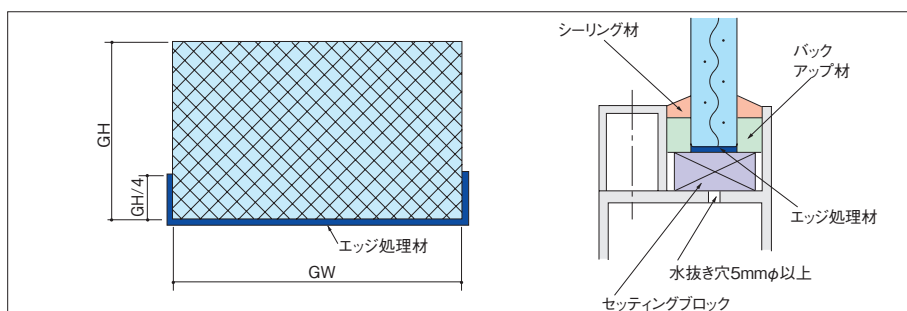
●施工図



- グレイジングガスケットはJIS A 5756 (建築用ガスケット)に適合したものをご使用ください。
 - クリアランス、かかり代などの寸法はJASS-17 (日本建築学会・建築工事標準仕様書17・ガラス工事)およびに規定された寸法を最小値としてください。P.160参照
および、板硝子協会・(一社)日本サッシ協会が定めた「複層ガラス・単板ガラスとサッシの取合いに関する仕様基準と解説」に準拠願います。
 - 防火設備などには、認定に適合したグレイジングガスケットであるかどうかを十分に確認してください。
 - 複層ガラスの場合には、グレチャン付複層ガラス「マンション用ペアマルチG」「ペアマルチG」をご使用ください。
 - 組子格子付の窓にはサッシメーカーの専用グレチャンをご使用ください。
 - グレチャンは樹脂製のため経年劣化により若干収縮します。そのため接合部分に隙間が生じることがありますのでご了承ください。
 - ペアマルチGを直射日光の当たる場所に長時間放置すると、グレチャンが収縮することがあります。施工前に保管する場合は直射日光を避け、風通しのよい屋内に保管してください。
※ペアマルチGはグレチャンの変形を防止するために、製品同士の間専用の緩衝材を挿入しています。施工するまで、その緩衝材をご使用ください。
 - 運搬時、グレチャンだけを掴んでガラスを吊り下げないでください。
 - ペアマルチGは水密性、気密性を確保するため、グレチャンをガラスに接着して出荷しています。そのため、グレチャンが破損すると補修はできませんので、取り扱いには十分ご注意ください。
 - ペアマルチGのグレチャン単体での出荷はしておりませんのでご了承ください。
 - グレチャン無しのペアマルチシリーズを発注後、ペアマルチG (グレチャン付)への仕様変更はガラス切断寸法が変わるため対応できません。
 - ペアマルチGを発注後、グレチャンの品種によっては、タイプ・色・形状などの仕様変更ができませんのでご注意ください。
 - ペアマルチGをご使用されない場合は、水抜き、および乾燥のため、底部に可能な限り大きく穴あけしたものをご使用ください。
- 注) FIX窓などその他の施工法を使用する際は、JIS A 4706及びJASS-17 (日本建築学会・建築工事標準仕様書17番・ガラス工事)をご参照ください。なお、セッティングブロックの材質は複層ガラスの封着部、合わせガラスの中間膜に悪影響を与えないように良質のものを選定してください。

●施工上のご注意

- 構法にかかわらずJIS A 4706 (サッシ)に適合し、寸法精度が高く、剛性のあるサッシをご使用ください。
- 網入ガラスは、サッシ内部に水が浸入するとガラス小口の網が錆びて強度低下の原因となります。網入ガラスをご使用の場合は下図のようにエッジ処理材で防錆処理をしてください。温水プールや浴室、温室などのトップライトに使用する場合は、一般のエッジ処理材よりもハイレベルな防錆処理をお勧めします。詳しくはP.12をご参照ください。



- 施工前のガラスは直射日光を避け、風通しのよい室内に保管してください。やむなく屋外に仮置きする場合は、熱割れを防止するために、直射日光を避ける措置を講じてください。特に網入ガラスで構成された複層ガラスや真空ガラスには注意が必要です。
※長期保管の場合は右図のような状態で屋内に保管してください。